

鶴の山・信太の森から「日知り」の聖地へ！

～鏡池、ネズミ坂など「葛の葉伝説」の地を歩く～

信太山界隈は古代、信太首（しのだのおびと）という渡来系氏族が住みついたといわれています。彼らは大陸由来の天文学に通じていて「日知り（聖）」の一族であったという説があります。また我が国最高の陰陽師・安倍晴明の母で「白狐だった」という伝説を持つ「葛の葉」ゆかりの地を歩きます。

⑥ 山千代兄弟の碑

日露戦争で戦没した山千代兄弟の顕彰碑です。東宮御学問所で裕仁皇太子（のちの昭和天皇）に帝王学などを教えた思想家・杉浦重剛が揮筆しています。

⑦ 中央寺跡

中央寺の寺伝によると、かつてこの地には中尾寺がありましたが荒廃し、それを元禄3年（1691）に黄檗三傑のひとり・慧極道明禅師（1632～1721）が再興したといわれています。しかし明治10年（1877）、維新の動乱で世の中が混乱した時に付近に強盗が出たので寺は小栗街道沿い（王子町三丁目）に移転しました。現在、中央寺霊園があり、霊園内には歴代住職の墓があります。

⑧ 聖神社参道

急な坂道ですが聖神社の秋祭りでは、この急な坂道をだんじりが駆け上っていきます。祭のハイライトのひとつです。

⑨ 聖神社

和泉国和泉郡の式内社で和泉国三宮です。現在の社殿は豊臣秀頼が片桐且元を奉行として再建したもので本社本殿や末社本殿が重要文化財に指定されています。境内にはいくつか古墳も発見されていて古くから神域であったと考えられます。古墳の中に大熊、小熊という土蜘蛛が住んでいて付近の人々を悩ましたという伝承があります。

⑩ 惣ヶ池遺跡

鶴山台団地の造成時に弥生時代の終り頃（約1900年前）の高地性集落跡「惣ヶ池遺跡」が発見されました。同時期に「池上曾根遺跡」や「観音寺山遺跡」も都市開発とともに破壊される危機に直面しており、地元住民や市民団体が「和泉三大弥生遺跡を守る実行委員会」を結成して保存運動を展開し、遺跡保存が決定されました。その後、令和3年（2021）の発掘調査で弥生時代の「青銅鏡」が見つかりました。小形仿製鏡と呼ばれるもので中国（前漢時代）でつくられた青銅鏡を真似して国内でつくられたものです。近畿地方で見つかった同種の青銅鏡としては最古級で泉州地域唯一の出土例です。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和5年（2023）3月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。



① バス停「鶴山台センター」

かつて当地には「鶴の山」があったといわれています。山の頂に一本松が生えて、そこに鶴がやってきて巣を作ったのが命名の由来とか。また毎年、1月11日夜には狐の穴に油揚げなどを供えする「野撒講」が行われていましたが、昭和46年（1971）、鶴山台団地の開発によって消滅しました。

② 姫塚古墳

信太山丘陵には百基ほどの古墳が確認され、「信太千塚古墳群」と呼ばれます。昭和37年（1962）に惣ヶ池南側の浄水場建設工事の際に発見されたのが姫塚古墳で、直径25mの円墳で横穴式石室が確認されました。箱式石棺の石材は和歌山の紀ノ川南側で産出される変成岩が用いられ、和泉まで運ばれたと考えられています。副葬品として金銀の耳飾り・管玉・琥珀玉、鉄刀、約20点の須恵器などが出土し、6世紀後半頃（古墳時代後期）築造と予想されています。調査後、和泉市役所敷地内に移築しましたが、その後、当地に再移築されました。

③ 鏡池

式内社・聖神社の北側にあり、かつては「手洗池」と呼ばれ、宗教儀礼の場であったと考えられます。葛の葉伝説では安倍保名（安倍晴明の父）が白狐・葛の葉を助けた場所で、その後、白狐は水面に姿を映して絶世の美女に変化したことから「鏡池」と呼ばれるようになったといわれています。

④ ネズミ坂

伝説では葛の葉がネズミに化けて獵師から逃げてきたといわれています。聖神社の参道でしたが残念ながら現在は閉鎖されています。

⑤ 信太の森ふるさと館

葛の葉伝説や信太山丘陵、和泉の史跡、名所、遺跡などに関する資料展示を行っています。入館料無料。
※お問い合わせ：0725-45-0605（電話）

プロデュース | 陸光賢 [観光家 / 大阪まち歩き大学学長]
コーディネーター | 宝楽陸寛 [NPO 法人 SEIN / コミュニティ Lab 所長] イラスト & マップ制作 | もんちほし (青木真知子) 協力 | いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生 (長江俊行 / むらかみあきら / 石野忠生 / 源和代 / next.g)

山千代兄弟の碑を揮筆した杉浦重剛は昭和天皇の先生!

中央寺を再興した慧極道明禅師

葛の葉伝説

安倍晴明の父、安倍保名

恋しくば
尋ね来て見よ
信太の森の
うらみ葛の葉

鏡池の白狐

近畿最古級の青銅鏡です!

聖神社には土蜘蛛がいた?!

聖神社の美しい本殿!!

鶴山台は鶴の山だった?

だんじり坂道を駆け上がります!

スタート!

ゴール!

和泉そぞろ

Izumisozoro

和泉市でも最古級の歴史を有する仏並を歩く!

～縄文遺跡から神武天皇ゆかりの伝説の宮まで～

縄文時代のユニークな土製仮面が出土したことで有名な仏並遺跡があるのが仏並町です。ここは初代天皇・神武天皇と、その兄・彦五瀬命(ひこいつせのみこと)が訪れたという伝説の神社があり、さらに『日本書紀』にも登場する池辺直氷田(いけべのあたひた)が活動したエリアで、いまも氷田の後裔の一族が住んでいるといえます。和泉市内でも最古級の歴史を有する集落・仏並を歩きます!



②父鬼街道

堺市の鳳から和泉市父鬼町、鍋谷峠を經由して和歌山県紀の川市穴伏に至る街道です。古くから利用されており、和歌山や和泉名産の木材、炭、蜜柑などを堺・大阪方面に運びました。

③覚超僧都生誕之家碑(非公開)

覚超(960?~1034)は平安時代中期に活躍した和泉国出身の天台宗僧侶です。比叡山で良源(912~980)、源信(942~1017)に師事しました。その覚超の自筆の『修善講式』(国指定重要文化財)は仏並町の旧家・池辺家に伝えられてきました。池辺家は『日本書紀』に登場する池辺直氷田の後裔といえます。覚超は仏並町出生で、そこで生誕之碑が建立されました。

④不食地藏堂

18世紀半ばから19世紀初め頃に作られた地藏尊像だと推定されています。不食とは江戸時代に流行った念仏信仰で、月に一度の断食行を3年3ヶ月(または千日)続け、その証明として供養碑を建立しました。供養碑には「不食供養為二世安楽」と書かれたものがあり、現世(生前)と来世(死後)の世界の安楽を願うために行われたことがわかります。初期は男性メンバーもいましたが、女性が多く所属したようです。和泉、葛城山系の修験の影響があり、大阪、和歌山、奈良などで不食信仰があったといわれています。

⑤佛並寺

池辺直氷田は帰化氏族の東漢(やまとのあや)氏の一族といえます。『日本書紀』によると欽明14年(553?)5月条に氷田は河内国泉郡の茅渟(ちぬ)の海に漂う霊妙な楠を取って天皇に献じ、天皇は画師にこの木で吉野寺の放光仏2体を彫造させたとあります。また『日本書紀』の敏達13年条(584?)には百濟から持ち帰った仏像2体をまつるために蘇我馬子が司馬達等と氷田を四方に遣わして修行者を求めさせ、播磨国で高句麗人の恵便という還俗者を得たという話があります。佛並寺の寺伝では氷田が馬子から授けられた仏像2体を奉安し、これが寺の起源といえます。また池辺氷田の子・徳那(とくな)が弥勒菩薩、観音菩薩の両尊を並べて奉安したという伝説などもあります。

①榎尾川

和泉山脈の榎尾山(標高600メートル)西麓あたりが源流です。和泉市内を北上し、大津川に合流、その後、大阪湾に流れます。榎尾山中にある施福寺は西国三十三所の四番札所です。寺伝では欽明天皇の時代(539~571)に播磨国加古郡の行満上人が創建したという古刹で、役行者、行基、弘法大師などが訪れたといえます。南海バス停「榎尾山口」からは約4キロで、徒歩約1時間ほどです。



⑥男乃宇刀神社

社伝では神武天皇の兄の彦五瀬命が長髓彦と戦って負傷し、この地の豪族である横山彦が迎えたのが神社の縁起といえます。「男乃宇刀」の「男乃」は兄、「宇刀」は弟の意味で、兄である彦五瀬命と弟である神武天皇(神日本磐余彦尊)のことです。また、かつては「常願寺」という宮寺があり、佐々木高綱(1160~1214)の建立といえます。高綱は源義経に仕えた武將で、木曾義仲と争った宇治川合戦のさいに味方の梶原景時と先陣争いをして勝利したエピソードで有名です。

⑦井上楠委君頌徳碑

和泉市南部は蜜柑の名産地で、特に横山地区の蜜柑は「横山みかん」の愛称で知られています。大正時代には大阪府は和歌山県に次いで全国2位の蜜柑生産量を誇っていました。碑は蜜柑産業に貢献した井上氏を顕彰するものです。

⑧道の駅 いずみ山愛の里

地場産品販売所があり、地元・和泉産の新鮮な野菜、果物や土産品が購入できます。飲食コーナーもあります。

⑨仏並遺跡

榎尾川左岸に形成された河岸段丘に立地しています。1973年の分布調査で存在が知られ、1985年に本格的な発掘調査が行われました。縄文時代中期(紀元前2700年頃)から後期(紀元前1900年頃)にかけての住居跡などが検出され、当時、西日本では初となる土製仮面が出土し、話題になりました。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「和泉市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和5年(2023)2月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

■プロデューサー | 陸奥賢(観光家/大阪まち歩き大学学長) ■コーディネイター | 宝楽陸寛(NPO法人SEIN/コミュニティLab所長) ■イラスト&マップ制作 | フジワラトモコ ■協力 | いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生(北村修治/山出弘/今津弘子/砥上久美子/中野愛子/駒澤重信/前原憲二)